

アンケート結果を受けて改善したいところ 【創造科学系】

上記二つの授業で取り上げる美術作品の多くが学生に馴染みの薄い日本の古美術作品であるためか、授業内容に対する関心がやや低い傾向が認められる。授業内容と小中学校の授業との関連をより丁寧に説明するなどして、関心を高めさらに自ら問題点を深めるよう促すよう心がけたい。

特に、製図では、授業の難易度が難しいと感じる学生が3割近くいたことが分かり、授業内容を変更したいと考えます。具体的には、課題の量と質を学生の実態に合わせた工夫を心掛けます。

・管弦打1については、曲の難易度、曲の長さの違い、学生の予習と練習具合により、個々のレッスン時間に違いが生じてしまう。これをできるだけ均等に近づける工夫を考えてみたい。
・これまでの経験から、この授業アンケートで学生から良い評価を得るためには、課題の数と難易度を下げるしかない。しかし学生の自己評価に反して、私自身は未消化に感じている。

授業内容の、分量と難易度について学生は困難を感じている様子である。日本美術史・東洋美術史については概説という性質上、分量や難易度の恣意的な設定は難しいものの、何らかの改善は必要だろう。ただし、この困難さが、学生の自習時間を大幅に引き上げていることは、よい結果でもある。

「わかりたい」声があったので、復習しやすいように情報提示を工夫したい。

本年度も授業後半が猛暑中での実施となった。使用施設との兼ね合いもあるが、ICT機器を利活用して、「授業を修得したことがらについて、自分の表現で伝えることができる」という項目をさらに伸ばしていきたいと考えております。

学生からの自発的な意見を聴取する機会を、より多く確保したい。

課題に対して予習ができるような内容を、付け加えたい。

どうしてもこれまでの経験の差が出てしまう授業内容であるため、授業内容がちょうどよい、と感じる学生がいる一方で、簡単である(これまでにすでに学んできている)と感じている学生がいることも事実である。アクティブラーニングを活かしつつ、個々への対応も細かくしていきたい。

「我が家の診断」の時間を増やし、自らの住まいの改善のきっかけとなるようにしたい

授業の学習目標が達成できたかの欄に対する答えで、どちらとも言えない、そう思わないが約40%いた。これを受けて、実技の授業なのでなかなか目標達成を自ら評価するのは難しいが、上達している実感を持たせられるように工夫が必要だと思った。

グラウンドでの授業なので授業内での休憩時間の確保。

来年度の授業では課題②で、素材を統一してよりデザイン性を重視して制作を行えるようにしたい。

上記の運動観察記録の記述に十分に時間をとるように指導してきたが、多くの受講生は授業の予習と復習に全く時間をとっていない。これは、指導がうまくいっていないことの証左である。
この点の改善が大きな課題であると考えている。

難しいと回答する学生がやや多いので、それを簡単にするのではなく、難しいと感じさせない説明の仕方などを考えたい。

アンケート結果からは改善したいことがはっきりしません

特にありません。概ね良好であると考えている。しかし学生の質によって柔軟に対応を変えられるように準備したい

特定の授業で、「⑤全くそう思わない」と回答している学生がいる。魅力的な授業となるように、写真や動画などをより多く取り入れて、わかりやすい授業を心がけたい。

ゲームを楽しむのに必要な技術の獲得のための時間が足りなかった。学生の技術レベルの向上にももう少し時間をかけるようにしたい。
授業の改善点ではないが、要望として、コートの使用可否が当日または前日の天候に影響される。コート整備が5面中1～2面しかされておらずコートコンディションの改善をお願いしたい。

全ての項目で、専攻科目全体を上回っており、特に問題を感じない。

電気II、電気実習は必須科目であり、一部の学生が難し過ぎる等の声があるが、自主学習に耐える教科書を選んでおり、自宅学習の頑張りが足りないと思われる。よって、受講生に厳しいようであるが、この厳しいスタイルは変えずに頑張ろうと思う。

学習指導要領に例示されている「投げ技」6種類、「抑え込み技」7種類、「技の連絡変化」、「試合」(抑え込み技)なども取り扱ったが、中学・高校授業で30時間を経験した者もいた一方で、初めて柔道を経験した者が半数の17名いた。このような条件で限られた時間の中では、十分に理解を深めることができない者も見受けられ、難易度や授業内容の量が適切と感じない者が多くいたことへの対応を今後の検討課題としたい。
学習指導要領で求められる上記の技を修得する為には、課題、レポートなどを課すことも検討したい。

音楽から人間の心を考えて演奏法に結び付ける授業を行っており、毎回の授業を聞いているからわかるワードや内容が多い。大変優秀な学年であったので、出席した学生に毎回更なる高度な授業を発展させた。真面目に授業参加している学生のためにもそれは必要であった。しかし欠席した学生などは、理解ができなくなっていたかもしれない。その学生のために補講なども行ったが、積み重ねでわかる内容なので、実技は回数だけ、つじつまを合わせてもダメであろう。学生同士の声掛けやフォローも声かけしていきたい。

設問の問8「教員の話し方は聞き取りやすい」と、問9「教員の説明はわかりやすい」の項目で①「強く思う」、及び②「やや思う」の合計が、それぞれ58.5%、63.9%とあり、他の設問と比較すると、受講生たちからの評価があまり高くないという結果が得られた。理由として考えられるのは、英語による授業であったためであろう。

それでも設問4「学生どうして授業内容を深めあった」では90%近い学生が、グループ内での意見交換を通して、授業の課題に取り組めたと考えられるので、英語による授業そのものが大きな問題だとは思われないが、次年度以降も本授業は英語で行おうと考えている。本年度は留学生も数多く受講しており、学生にとっては良い経験になったのではないかとも思える。但し次年度は、もう少し簡単な単語と文法を使うことと、日本人でも聞き取りやすい発音にしようと考えている。

アンケートの設問中、問1、2は①「強くそう思う」と②「ややそう思う」を合わせると100%になるので、本授業を通して「新しい考え方や知識・技能が身につく」、「自ら文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考え」るようになったという結果に満足している。同様に問3、6、8で90%、問5、7、11で80%と、それほど悪い結果とは言えないと考えるが、問4「学生どうして授業内容を深めあった」は70%で、学生が個別のテーマを扱っているため、仕方がなかったと思われる。次年度以降、相互に意見交換をするなどの工夫改善を試みようと考えている。

問12「さらに学びたい」が60%と最も低かったので、向学心・探求心のほか、分析的な思考をもとに文章を書くことへの興味・関心を高める工夫が必要であると感じている。

実技指導を中心とした授業内容ではあるが、油絵を初めて描く学生が大半であり、道具の使用、専門用語等の説明にさらに時間を掛けることにより、理解を深める必要を感じた。